

◎教育、民生常任委員会の研究テーマ

「子育て環境の充実」

1, 目的

全国的に少子化の問題は深刻となっており、核家族化の進行、就労環境の変化、地域のつながりの希薄化など子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化している。このような状況において、子育てに負担や不安、孤立感を感じる保護者の増加、多様化する保育ニーズへの対応など、様々な課題があることから、昨年に引き続き本町の時流に合った子育て環境を充実すべきと考えテーマといたしました。

2, 本町の状況

本町では、子ども医療費助成事業により18歳までの医療費の無償化や、民間保育事業者の協力による待機児童ゼロの達成、子ども支援センター事業による相談窓口の充実など積極的に取り組んでいる状況に在りますが、都道府県の手厚い支援や、ふるさと納税などの自主財源の多い自治体などに比べると、大きく見劣りしている状況に在ります。

3, 研修事項

- 1) 母子手帳を補完するアプリについて。
- 2) 病児・病後児保育について。
- 3) 天候に左右されない遊戯スペースについて。
- 4) その他子育て事業について

4, 先進地視察研修

① 名取市 7月18日(金) 概要 人口 79,814人 世帯数 34,441世帯
名取市屋内遊戯施設「なとりパーク」

- 対象年齢 0歳から12歳とその保護者が予約により無料で利用できる。
- 委託先 株式会社フクシ・エンタープライズ(委託料年間1500万円)

所見

県内外からの利用者も多く、市の子育て施策としては悩ましい状況に在るようであるが、活性化などに大きく寄与しており大変有効な施策と思われる。

② 女川町 7月18日(金) 概要 人口 5,778人 世帯数 3,057世帯
病児・病後児保育室 「じょっこ おながわ」

- 対象児童 町内在住か町内に勤務地を有する保護者児童で概ね小学校3年生(状況により6年生まで)
- 委託先 女川町地域医療センター保育士2名と担当看護師1名が常駐し、必要時に医師が対応する。

所見

女川町地域医療センターから実施したいとの提案があり医療センター併設で実現し、住民からも子育てしやすい町、みんなで子育てをする町と評価されているようである。

③ 千葉県多古町 7月23日(水) 概要 人口 13,272人 世帯数 6,058世帯

- 1) 学校給食助成金事業
- 2) 高校生等医療費助成事業(22歳までの学生が対象)
- 3) 第3子以降出産・入学祝金事業(3人目以降、出産時30万円など
総額100万円を支給)
- 4) 多古病児保育所事業(国保多古中央病院に併設)
- 5) 多古町奨学資金貸付免除事業(多古町在住で就業すると免除)
- 6) たこまち子育て応援ナビ事業(年額26万4千円)

所見

独自に多彩な子育て事業を展開している。職員が新規事業に積極的であり、子育て支援意識が高い、また、情報を住民バスにも掲示し「子育てのしやすい町」「みんなで子どもを育てる町」を実現している。

④ 千葉県柏市 7月24日(木) 概要 人口 436,545人 世帯数 201,923世帯

1) 子ども・子育て支援複合施設「てとて」

元々は駅前の総合デパートで分館(5階建て)を改修し設置。柏市すべての子どもと子育てを応援する施設として6年度より各階随時運営開始している。

- 1階 ○遊びの広場 ○はぐはぐポケット中央(一時預かり保育)
- 2階 ○妊娠子育て相談窓口 ○駅前すこやかプチルーム(育児相談、子育て支援)
- 3階 ○柏駅前送迎保育ステーション(こども園への送迎)
- 4階 ○本の広場(本を読んだり自由に過ごせる居場所)
- 5階 ○中高生の広場(放課後や休日に自分らしく自由に過ごす広場)

所見

先進的子育て施設に終始感心させられた。利用している子ども・保護者が十分満足しているのが感じ取れ、現時点での子育て支援施設の完成形に近いものだと感じた。

5. まとめ

子育て事業先進地では首長を先頭に職員が積極的に子育て支援に努め成果をあげていると強く感じた視察であった。

本町においては近隣町村に比べ、十分な子育て支援を行っているが、病児・病後児保育や屋内全天候型の施設、また、子どもの居場所に関する施設が無い。

財政に恵まれている自治体と同じ対応は出来ないが、町が一体となり国、県また、民間の力を借り子育て支援新事業を実施していくべきであり、下記の事項について提言してまいります。

記

- 1, 南郷病院での病児保育、保育所空き保育室を利用した病後児保育。
- 2, 子育てアプリを利用した子育て支援。
- 3, 子どもの居場所、屋内遊戯スペースの確保。